

会 議 録

件 名	紀見地区 地域説明会・意見交換会
日 時	令和6年7月28日（日）午後6時から午後9時まで
場 所	境原小学校 体育館
参加者	紀見地区 87名 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 簗下教育委員、東学校再編推進係長、東川、中山

今田教育長挨拶、東学校再編推進係長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。なお、出席した保護者には、説明会終了後、意見等を記入できる用紙を配布しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1－1. どうもありがとうございます。私、小峰台区長を仰せつかっております。どうぞよろしくをお願いします。

本日、10時から未就学児の説明会に参加させていただきました。今日は2回目の説明を聞かせていただきます。個人的に申し上げたいことは、今朝の方で言わせていただきましたので、個人的な意見は置いとかせていただいて、本日は小峰台区として、一応勉強しまして、かつ、役員全員来ています。役員と協議した上で、区の総意として伝えさせていただきます。御庁も、議事録残していただけると思うんですけども、私も区の代表でありますので、こちらもボイスレコーダーで取らせてもいただきます。会長発言及び区の意見として会議録として残させていただきます。そして後日取りまとめて、小峰台区の回覧の方にも回させていただきます。区として正式にこの場で皆さん方も聞いてくださっているので、申し上げさせていただきます次第です。

先般、区長として5月の区長連合会の方で申し入れさせてもらった点等を重複する点もございますけどもご了承くださいます。まず、地域向けの説明会ですけども、当該説明会の1回で、御庁の言う丁寧な説明と対話を重視したことになるとお考えか。これは広報はしもと5月号にも記載されていましたが、一番大切なことは、これからの事案等ですよね。具体的な詳細等々については、この当該の説明の中では記載されていないですよね。スクールバスについても、再編先の小学校についても、いろんな意見が出ていると伺っています。今後の具体的な事項について、今回の説明会だけでは事足りるのかなと思っています。詳細な事項については、まだまだ御庁からの説明・周知は足りていないんじゃないかと率直に申し上げさせていただきます。

ちょっと長くなって恐縮なんですけども、当該説明会の後、具体的な決定事項について大きな変更、小峰台区の代表なんで小峰台区に特化して申し上げさしていただくんですけ

ども、我々の区にとって大きな不利益的な取扱い、決まってないので、当然、今後の話では、バスも小峰台区で検討してましたけども、やはり 2 キロ圏内に満たないんで、やはり小峰台区さんも歩いていただきますとか、場合によっては、ちょっと児童数を再編すると、やっぱり隅田小に行ってもらえますとか、あやの台小に行ってもらえますとか、これは可能性として残っているわけですね、現段階では。そうした小峰台区としての大きな不利益的な取扱いが生じる場合、また、その可能性が大きくなることが予見できる場合、決定事項が教育委員会の机上だけで決定、素案から大きな変更が入ることを含めますけども、これが市議会等で可決され、橋本市として行動計画として成立する。その計画がとおり切ってしまう、我々市民はそれに従うしかないという事態になることが最も危惧されるところかなと思います。

それはなぜか。当然、法的な拘束力が増すと考えているからです。市長の名前で出す、行動計画になると。基本的にはもうそのまま行くことが通例やと思います。町の行動計画にしてもね。いわゆるこの意思決定の過程をブラックボックスのようにしてしまうと、我々市民は非常に困る。先日、これちょっと若干それるかもしれませんが、MBS のテレビ放送でだと思うんですけども、吹田市の山田地区という学校教育問題、MBS が追ってました。そこでも同じようなこと言うてました。それも、再編される方の学校は、吹田市の教育委員会に対していろいろ申し入れたけども、細かいところ約束していませんと言ってね、やっぱりはねつけていたんですね。それは、吹田市は教育行動計画になっていたんですね。つまり、議会をとおっていたということですね。となりますと、当然、それが大きな理由の 1 つになると思います。これが、やっぱり小峰台が、市全体としてその過程が吹っ飛ばされて決まってしまう。これがやっぱり一番怖いところと危惧しております。

例えば、民法や刑法、行政法、労働社会保険法といった一般法は、それらの法文の中に、法律の趣旨や目的達成のため法律の手続きの要件や、その法的効果といった規定が明確に記載されていることが多く、また上級行政庁の指揮監督を受けたり、詳細な通達に従うなど、一般的な行政庁への裁量権は大きく認められていないのではないかが、通例だと思います。つまり、法文があるので、担当している行政庁は、それを厳格に解釈して動くことが多い。これ私の仕事上もちょっと絡めて言わせてもらいます。しかしながら、このような教育行政については充実した一般行政とは少々異なる運用がされており、ともすれば、御庁の行政裁量権は比較的多いのではないかな。つまり、一般行政に比べてということですね。橋本市はこういうふうを考えているけども、例えば私、先日、九度山の方にお聞きしたんですけども、河根小学校というのはたった 1 名になるまで、小学校を存続させたという話もお聞きしました。それは、我々一般市民からしてみると対応は違いますよね。橋本市では統合されるけど、九度山ではしっかりやってくれる。これはもう全然違う、住んでいるところによって違うということですよ。普通の法律はそんなことしませんからね。そうであるからこそ、教育行政について、公権力を行使される教育委員会の皆さんには、ことさらわかりやすく、そして丁寧に市民への説明を繰り返し行っていただきたいと切望いたします。

しかしながら、残念ながらそうはならない場合、またはこの小峰台区にとって不利益的取扱いがなされる、その事態が起こりうる蓋然性が高いと判断される場合は、まことに不本意ではありますが、県教育委員会に相談、指揮監督権の強化の依頼、小峰台区そして区長として、市議会議員さんへ各陳情・申し出の実施、そして紀見地区区長連合会に対して協力の要請を行うことも検討せざるを得ないかなと。紀見地区の連合会長他の区長さんも、この意思決定を適切に守られるかどうかというのは、他の区長さんも連合会長も注視してくださっているので、この辺りも含めたいと思います。くさびを打たしてもらうような感じで大変恐縮なんですけども、万が一、10万が一、100万が一ですね、かんかできない行動計画になってしまった場合は、行政事件訴訟法に基づく訴訟等も視野に入れていかざるを得ないのかなと思います。これは言わせてもらっているだけです。これは本当に、こんなことは絶対お互いに避けたいんですけども、これは行動計画というの、取消訴訟の対象になっていますんで、この辺は市内部の法務部に聞いていただければと思います。

先般の令和6年6月橋本市定例議会の動画サイトも拝見いたしました。それらを総括した上で意見を申し上げさせていただくのですが、教育委員会さんの当該学校再編に係る答弁は控え目に言ってもかなり苦しいように私は映りました。そもそものロジックが確固として成立していないように見えます。今日の未就学児の分も行かせていただいたんですけども、こちらから聞いたら明確に回答されている箇所もございました。しかし、それはこちらからアクセスしなければ帰ってこないというのは、情報として非常に非対照性があります。つまり、持っている情報に違いがありすぎる。通学路のことも、未就学児の方が質問されて、教育部長が適切に返してくれました。そういう検討があったということも言うていただければ、こんなふうに考えていく下りがあったんだなとわかるんですけども、そういったところがちょっと説明がまだ足りていない。論理がちょっと成立してないんじゃないかなと思います。

検討委員会の答申というものの、もちろん大切ではありますが、それを実行することに固執し続けてしまい、子供たち目線、関係機関、地域との調整を忘れてしまつては、再編することによるメリットはどんどん小さくなってしまわないでしょうか。学校関係のことですので、やはり子供たち自身、保護者、未就学児の保護者さんも含めます。校長、教員、PTA、市議会、地域住民たちとの学校再編について、幅広い合意形成が醸成されながら再編計画についてじっくりと考えていっていただきたい次第です。その上で、3年という期間に縛られず、多くの選択肢を保有しながら、丁寧な対話と説明を続けていていただきたい。計画の実行年度を決めていると、この過程がなおざり、せっそくになりかねない可能性があることが容易に想像できると思います。

1－2. 大変長くなって申し訳ありません。防災上の観点からも申し上げます。学校の再編とはちょっと直接リンクするじゃないのかもしれませんが、境原小学校の子供たちはもとより、我々、小峰台区民も大雨時、境原小学校は避難所として開設されない

と、その運用方法は非常に複雑であります。理解している区民は少ないのではないかと考えます。現に、昨年の大雨の際、避難されてきた小峰台区の区民の方がいらっしやると伺っております。また、御市から自宅避難を推奨されると、6月の定例会でも市長が当該趣旨のような発言をしておられましたけども、これは見方によっては、小峰台区の防災避難の観点について、行政の積極的な観点が失われているのではないかと感じます。この辺りは危機管理室の管轄かもしれませんが、市民の財産、生命を守るという行政の役割を、そもそも思い出していただきたい。

昨年度の当区自治会、自治会長、そして防災部長が非常に熱心に危機管理室と協議をしてくださったそうです。初芝橋本高校はどうだ、橋本市民病院、北消防署、境原幼稚園どうですかと、危機管理室と何回も協議を重ねたと聞いています。しかしながら、どれもが避難所としては厳しいという回答があったと聞いております。南海グリークサポート「ティア橋本」との協定も有事の際の遺体安置などが主として記載されており、小峰台区の避難所の確保は近々で具体的な対応もお願いしたいと。そして、この学校再編となぞらえて、例えば、既存の学校の補強工事、体育館の補強工事、地盤法面の補強工事、もしくは来年閉園する境原幼稚園側に新しい校舎や体育館、当然区民の避難所を兼ねていただくものなどを作るなどしていただければ、これらの課題は、子供たちの安全性と小峰台区の防災減災の両側面が大きく前進するのではないかなと考えます。約 6,000 万円超かけて境原小学校のこのトイレ改修工事が、より有益なものになるために、これらの観点からも検討をお願いいたします。

そして最後にちょっと大局的なマクロ的なお話ですけども、橋本市は数年前から企業誘致を熱心に取り組んでおられます。あやの台地区の造成工事等も着実に進めておられると伺っています。これ新聞等々にも掲載されておられました。加えて先般、本市の悲願である国道 371 号（石仏バイパス）天見紀見トンネルも開通いたしました。大局的な観点から申し上げますと、こういった事象は自治体にとっては非常に有益であり、人口増加が見込める大きなチャンスではないのかなと思います。勤務先が橋本市にあるから橋本市に住もう、市外からの転入の促進、トンネルができて通勤しやすくなったから橋本市に住もう、市内からの転出の防止、こういった方々は今後の本市にとっては非常に大切になるのではないかと考えます。そのような際に、引っ越し先を選ぶ時、居住先を選ぶ際、小峰台区も引っ越し先の候補先であり続けるべきだと考えています。当区に住む最も強い要因は、子供が徒歩圏内で通える距離に学校がある、この点です。私も自治会長の任を拝命してから、多くの小峰台区民の方々と話す機会をいただきましたが、ほとんどの方が口をそろえて、境原小学校へ安心して子供が通わせられるから小峰台区に来ましたとおっしゃっておりました。

しかしながら、再編計画が進めば、今後、当区に住んでも子供の徒歩圏内に学校がないというのは、大きなマイナス要素であり、小峰台区の価値を不当に押し下げてしまいます。これでは小峰台区は若年層の転入が一向に進まず、高齢化がますます進んでしまいます。これは市全体にとっても大きなマイナス事象ではないかなと思います。人口増加を目指す市政

の企業誘致施策と連動させて、今こそ橋本市の魅力である、大阪圏へ通勤でき、1戸建てが持てる安心安全な地域を増やしていくべきではないでしょうか。このインフレが続く現況、大阪府内に家を買うのが厳しいという方にとっては、このベッドタウンが入り込める余地というのは、まだまだあるんじゃないかと思います。学校運営等には多額の維持管理費がかかるのですが、ここは眼前の投資と考え、人口増加を狙い、学校整備、防災整備に重点を置くべきではないでしょうか。そして定住者を増やし、それが後々、本市本県の税収アップ等にも繋がっていけば、それは地域や行政にとっても、お互いに非常に有益なことなのではないかと考えます。今一度、行政の原点である公共の福祉に資するという点に立ち返っていただき、子供たちの未来のため、また、本市の発展のためにも学校という存在を重視して、大きな視点で未来への投資がされる活気あるまちづくりに取り組んでいただきたいと思います。すいません長くなりましたけども、以上です。よろしくお願いします。

(教育委員会)

ありがとうございます。私からこういったことを申し上げるのもなんですが、ものすごい熱意が伝わってきて、本当に自分がマイク持ってどうしゃべったらいいのかなという気持ちに正直なっています。ちょっと前後するかわからないですが、順番に行かせてください。最初におっしゃられました今回の説明会のこういった機会なんですけど、とても今回1回だけではお伝えして、これで終わりということは考えてございません。橋本市広報の5月号に、初めてこういう基本方針を作りました、第2期の方針を作りましたという形で、ネット上に上げさせてもらっているんですけど、やはり学校運営は今まで、教員だけでなく地域の方とか、地元の方にですね、お世話いただいて子供たちを育てきたという経緯があります。ですから、当然ですけども現役のPTA、保護者様には説明をさせてもらうんですけども、こういった形で地域の方にも、特にこういう大事な学校の再編ということに関してはお伝えして、今日は1回目なので、一方的な説明ではなく意見も賜りたいというスタンスで来させてもらっております。ですので、全く同じ形にはならないかと思うのですが今日1回で終わるという考えはございません。引き続きさせていただきたいと思います。

それから、決定事項という形で、過去の説明会で聞かれたたこともあるんですけど、現在は教育委員会としての基本方針をお伝えしているところです。この図ですけど、この右端に「(仮称)橋本市の新しい学校づくり推進計画策定」というところがあるのですが、これがいわゆる計画になります。現在は教育委員会の方針、説明の途中にあると思います。この10年間で小学生の人数が、急激に全国の2倍に減っている。10年間で約21%の子供の人数が減っている状況の中で、教育委員会として、規模という形で子供たちの学習環境を整えていこうと思えば、やはり一定の集団が必要じゃないかという方針を打ち出させていただきました。その中で、学校再編というのは挙げさせてもらっているんですけど、あくまで学校の設置者は市長になります。ですので、教育委員会がこの2期の基本方針を強引に推し進めるという考えはございません。ただ、一定の教育委員会として、こういった学習環境を整えたい、設けたいという考えを示させていただけないと議論ができませんので、最短

目標値であったり学校再編の場所というのを具体的には提示させていただきましたが、最終的には橋本市が計画を定める形になりますので、こういった形でいろんなご意見をいただいたのを踏まえまして、総合的に進めていくものと考えています。

それから、子供たちの目線のこともおっしゃっていましたが当然のことです。学校というのは、私たちは教育委員会の事務局で仕事をさせてもらっているのですが、やはり学校現場は先生方に教鞭を図っていただいています。その後ろ楯になるのが私たちであって、でも地元の方とか、卒業生の方、そのOBの方、その保護者の方にあって、例えば運動会であったり、学童であったり、地域コミュニティがあるわけです。ですから、子供目線も第一なんですけど、学習環境を取り巻く上で皆様方と連携を図って引き続き見守っていただきたいという点は強くございます。ですので、押し切ることは考えていません。

ブラックボックスという言葉が出てきて、不利益なことにつきましては、意思決定の過程を明らかにしてという話がありましたが、そういうことは大事にしていきます。いわゆる、言葉をスルーしたり、大事なことを話さなかったりという意図的なものはございません。

それから、防災上の観点で避難所につきましては、確かにおっしゃられたように危機管理室が災害の担当部署になるんですけども、現状としては、この境原小学校は、大雨のときは体育館が避難所に指定されない実情がございます。並行して危機管理室は、いろんなところに協議を進めているんですけど、途中も出てきたんですけども、ここの斜面のことがあって、このハザードマップで先ほどの色塗ってあったところなんです。この土砂災害特別警戒区域が真横にある状態で、避難所としては開いてない実情がありますので、こういう実情を知ってもらって危機管理室とヒアリングはするんですけど、小峰台区の避難所というのは考えていく必要があります。

それから企業誘致のことについては、ちょっと教育委員会で申し上げにくいんですけど、トンネルが開通して行き来がしやすくなった。その中で、いわゆるまちづくりに関して徒歩圏内で子供が通えるというこの環境をよく考えて、進めていくべきではないかというところは、私たちもそういうのは持っています。不動産を若い方が買われる時、やっぱり一番何を重視するかと言えば、子供を授かったときにおっしゃられたように、子供が通えるというところをまず一番に考えて、親から自立して、ローン組んで家を建てるんじゃないかと思うんです。多分外れてないと思うんですけど、そういったところは正直あるんですけど、今、橋本市が本当に子供の数が急激に減ってきて、今の時点で教育委員会が何も方針を出さなかったら、本当に手遅れになると思いましたので、一定のこの再編の案を出させていただいている次第です。それから市の魅力ですね、未来の学校の提案ということで、区長さんから生の声をいただきましたので、その旨は今日持って帰らせていただきたいと思います。

2. 32年前小峰台に引っ越して参りました。その時に、私の息子が境原小学校で6年生1年間お世話になりました。子供いわく、境原小学校ほどいいところはない。もう今40歳以上の息子ですけども、なぜかという、それは人の心が温かい。友達がみんな自分を大切

にしてくれた。今もそうです。未だに変わりません。私も10年あまり前から、小学校の子供たちにかかわらせていただいております。4年生の授業で入らせていただいているのですが、子供たちはとても伸び伸び、本当に優しく、思いやりがあって、もうこんな理想的な学校はないと思います。それは、人数が減ってきたのがありますけれども、少ない人数の中でも、一人一人を大切にする教育というのがここでずっと行われてきているのです。そんな学校を廃校にして、大勢の中に入れてしまう。我慢しなさいよということじゃないですか。私も教壇に立ったものとして、以前は40人以上、自分が育った時代は40人以上。4クラス5クラスが当たり前の時代でした。でも、今人数が減ってきているからと自治体の方も苦慮しておられます。若い方を呼び込みたいと市長もおっしゃっておられます。やっぱり、子供たちが伸び伸びできるところが、どんどん人が増えていくんじゃないでしょうかと思います。いつでしたか、ちょっと日にちは覚えておりませんが、テレビのニュースで奈良県知事が学校の統廃合は一切行いません。というニュースを見て、私は奈良県はこれから人口が増えていくんじゃないかなと思いました。やっぱり親御さんにしたら学校があちこちにある、それも自然豊かな中にあるということは、子供にとってこれほどない理想的な環境だと思います。橋本は山あり川あり、私もそこで育った人間として、プラスアルファ人の優しさ、近所の方に育てられて1人前になりました。ここは、それ全部そろっております。境原小学校、地元の境原の方、杉尾の方、細川の方、その方たちがちゃんと昔から変わらず、そういう環境を作ってくださっているんです。後から入ってきた私たちも本当に大事にしてもらっています。日本だけじゃないです、外国で生活した私も、外国ですらご近所みんな大切に子供たち大切にしているのに、どうして日本はこんな杓子定規なことで決めていくのかしらとちょっと情けなくなっています。教育委員会の委員さん方、教育長さんも皆さんとても良い方だっているのはわかっております。子供たちのためにどうか、ご尽力いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。この学校のことをまず、そういうふうに使っていただいて本当にありがとうございます。1つ私たちがちょっと申し上げる中で、学校再編の基本方針を今回出させていただいているんですけど、この学校再編というのと、統廃合というのがちょっと意味合いが違いまして、学校再編というのは、適正な規模に注目して、お互いの学校の歴史とか文化とかいいところ、そのカリキュラムを尊重して場所はどちらかになりますけれども、新しい学校をつくるというイメージなんです。それに対して、統廃合というのは、規模の小さい学校が規模の大きい学校へ吸収されることを統廃合というので、どうしても今、基本方針ですので、統廃合ありきで数字合わせで説明をしているのではなくて、学校再編としてのこれからの子供たちの学習スタイルを整えたいということでの意見交換の場という形でご理解いただければ非常にありがたいです。でも本当にご意見いただきありがとうございます。

3-1. お二人から意見がありましたんでね、私もそのままのことだと感じているんですけども、ただ1つずっとマイナスの話ばかりなんですね。日本の人口こうなっているよ、橋本もこうなっているよ、下がってきているよ。これに対して何か努力されているのかなと、何が問題なんですか、問題点は何なんですかと思うんです。7月25日の読売新聞に、人口減少の都道府県の一覧が載ってございました。和歌山県というのがワースト10位でした。ワースト10位ですよ、1年間で下がった率がね。和歌山県として、どういう努力されているのかなと、橋本市として、どういうことを考えているのかなと、これ教育委員会さんに質問することじゃないかもわかりませんが、この境原小学校が無くなると、ここに移ってこようという人が、また減ると思うんです。もう来なくなるでしょうね。そして、都市に行かれた方がだんだん去って行って、境原この地区は無くなるんじゃないですか。無くならすのですか。どういふか嫌な思いでね、今日はちょっと、そのことだけでも申し上げたいなあと思い参加した次第なんです。

問題点は何ですかね。問題とはって何かわかります。ちょっと答えてくださいよ。

(教育長)

教育委員会として、10数年前から取り組んでいること、こんな町になってもらいたい、こんな学校になってもらいたいということで取り組んでいることは、昔から学校のことは学校でということがよくあったと思うんですけれども、そうではなくて、子供たちの教育に、地域の方、周りの大人がしっかり参画してもらいながら、町全体で子供を育てていくようなまちづくりを進めていこうと考えてきました。そういった取組でそれぞれの中学校区ごとにコミュニティ形成をして、すべての中学校区においていろんな方々に参画いただきながら、子供たちの教育に関わってもらおうというような仕組みを作って参りました。

その中でもこの境原小学校は、特色ある取組の中に地域の方が入っていただいて、取り組んでいることがたくさんあることは存じ上げてもらっていると思いますけれども、そういった取組をしてきました。教育委員会としては、そういったことが特色であり、子供たちを育成することであり、それがひいては子供たちが町に愛着を持ったり、町の課題について考えたりする市民性の育成に繋がっていくと思うんです。それがまた、子供たちが出て行くこともあるかわかりませんが、出て行ったところで、そういうようなことを身につけておけば、そのところで頑張ってくれたり、また、こっち戻ってきてくれて、橋本のために何かしてくれたりということに繋がっていくとそんなことを思いながら教育を進めてきたところですよ。そこが一番大事にしてきたところでもあります。そういった教育を進めていくための、大事な要素として、参画いただくこと、そして子供たちが、自分たちでいろんなことを解決していくための集団づくりというのが大事、それで、境原小学校については、まだ本当に極端に減っているわけではないんですけれども、地域によれば子供たちの数が減ってきているところもあります。そういったところがやっぱり大きな問題としてあげられると思うんです。けれどもこれは、地域ごとに、今なのか少し先なのかという、その時間的な違いというのは出てくるかと思うんですけれども、今後やっぱり私たちはそのことを考えなが

ら、教育に当たっていかなければならないと考えています。

3-2. このやっぱり、この小学校がここにあることが、小峰台の中では一番重要なことなんです。活性化していかないかんわけです。そのために、今日、市の方が来られてないんで、どれだけ響くかちょっとわかりませんが、やっぱり住宅に絡む方なんかとね、どうやって橋本市の人口を増やすために、どういうことをしていったらいいんだろう。そういうことをしっかり考えていくと、こんなことせんでもええんちゃいますか。やっぱり、人口が減った人口が減ったばかりで、どこもそやけど。この南海線は、城山台にしても、三石台にしても、境原にしても、この先のあやの台も絶対発展しますよ、やりようによっては。せやからもう境原小学校は残しましょうよ。なんや適正なんやらというのも素晴らしいことなんだろうと思うんだけど、先ほどもお話があったように、今は適正なんです。増えてきていますよ。これ何で増えているのは、やっぱり魅力を感じていただいとるんですよ。その中の1つが境原小学校なんです。やっぱりそのことも、よくちょっと考えていただいね。ほんでもう第2回は要りません。もう、わかりました、それでいいんじゃないですか。私はそう思います。何とかちょっと頑張って、市長も連れて来たらいいじゃないか、そう思いますよ。何が適正かなんて、ちょっとようわかりませんが、うちの孫はここでよかったなと、私は思っています。少ないところで育っていますけど、ちゃんと適用していますよ。本当にちょっとそういうことも1つよろしく願いますね。問題点1つよう考えてみてください。ありがとうございます。

4. 小峰台に住んでもう30年近くなりますけど、上の子供と下の子供2人とも、境原幼稚園、境原小学校、素晴らしい教育環境のところに通うことができ、本当にこの場所に引越してきてよかったと思っています。ちょっと資料あるので座って読ましてもらいます。第2期橋本市適正規模・適正配置基本方針、ホームページで確認しました。そこには、子供の成長を第1に考えるんぬんと書いているんです。子供の最善の利益のために望ましい教育環境を整えることが目的として今回作成したと。人口動態やうんぬんで、4章立てになっています。しっかり読んだんですけどね。正直、子供の成長を第1で書いてながら、内容は、教育に取り巻く環境、将来の人口動態など、大人の都合第1に子供の成長をないがしろにしていると思います。4章立てになっていますけども、子供の教育のことを書いているのは、2章のみです。しかも、あまり意味のないようなこと、聴きざわりのよい言葉を並べているだけです。小学校を廃校にするための都合の良いデータをいっぱい落としていると、そういう感じですね。なぜ境原小学校を廃校にすることが、在校生や、これから通学する子供たちの最善の利益になるのかということは一切書かれていません。そのつもりは一体何なのかと本当に不思議でなりません。私はもうそれ書けない理由はたった1つだと思います。子供たちの成長を第1に考えているのではなく、本当は、言うたら教員数を減らして、学校減らして、市の行政、財政改革の一環ということかなと思って、そこは初めに1

つ指摘しておきたいと思います。

主に3点言いたいことがあります。1つは通学距離等、健康や交通事故のリスク、学業成績への影響です。ここからね、ちょうど2キロ弱なんですよ。今回方針の中で2キロというところを置いているんで、スクールバスは出してくれるか出してくれないかわかれへんような説明会はあまり意味がないんです。ちょっと言いますね。まず1つは、身体的負担非常にかかります。小学校のランドセルは平均で3キロあると言われていたんですよ。それを抱えながら、長期間歩くことによってやっぱり身体的な問題が起きます。あと、交通事故のリスク。交通事故総合分析センターのデータによりますと、2キロ通学距離等を行う場合、交通量の多い時間帯や危険な交差点での事故リスクが高まるというふうに言われています。3点目、学業成績への影響です。当然、長距離通学で時間を使うことになりますので、朝早く起きて、長期間長い距離歩くことについては、睡眠不足も起きるでしょうし、学習時間も減るでしょう。4点目、学習時間と遊ぶ時間ですね、自由時間も減ります。通学距離が2キロ弱となってくると、小学生が重たいランドセルを背負い通学することは、身体的負担、安全性、時間の問題など多くの懸念があります。これが全校生徒が、もう1人2人というようなところの小学校を廃校にしてスクールバスを出すという意味ならわかるんですよ。100名超えて、逆に増えて150人近くいる小学校をわざわざ廃校にして、スクールバスを出すか出せんかわからないみたいな説明会は意味ないでしょうと僕は思っています。

ここからちょうど2キロ弱ぐらいですわ、境原小学校の正門から測ってもらったらわかると思いますけど、行きは30メートル下るんです。城山小学校に行こうと思ったら、そっからまたね40メートル上がるんですよ。だから要は70メートルの高低差を毎日小学校1年生の子が歩くことになるんです。仮にスクールバスがなかったとしたら。これ70メートルという、23階建ての高層ビルを1階から23階まで上がる高さなんです。距離だけで考えたら困るんですよ。そこはちょっとしっかり認識してもらいたいと思います。

2つ目、小規模校の独自のメリットが全然書かれてません。あえて書いてないかなと疑いたくなります。1つは、個別指導の充実ができます。きめ細やかな支援、指導もできますし、個別対応もできます。我々の子供もそうでした。2つ目は学年を超えた交流があるんですよ。ドッジボールも1学年でやっているんじゃないです。2学年3学年まとまってドッジボールできるいい環境があるんです。あと、地域との密接な関係も当然ありますし、境原太鼓もあります。教育環境の安心できる、教育を受ける環境もありますし、家庭的な雰囲気もある。逆に、柔軟なカリキュラムの実施なんて小規模校の方がしやすいんですよ。コミュニケーション能力の向上、そういうところも当然、児童数が少ないので児童同士の深い絆というものもありますし、リーダーシップとかの育成にも繋がります。先生自身も小規模校の方が、正直楽ですよ。そういったところの負担軽減もあるということで、やっぱり学年1学級、単学級の小学校、小規模校にはそれなりの指数の高い教育を提供できることが可能なんで、単に1学年2クラスみたいなことを言うて合理化するんじゃなくて、しっかり子供たちのことを考えて欲しいなと思っています。

3点目、地域コミュニティの衰退、まちづくりの観点から言います。ここは都市計画の中で作られた住宅地なんです。民間で投資の住宅開発で、橋本市と南海電鉄とURとかが土地区画整理事業ということでやっています。その地域、ここに住宅地を作り、小学校を配置して、道路を配置して、上下水を整備するのも、まちづくりそのものなんです。こういう町は、都市計画上、決定して作っているんですけども、大事なことは、できた造成時に小学生を持った我々みたいな、当時、二、三十年前に入ってきたんですよ。当然小学生はたくさんいますわ。一気に減ってしまうんですね。当たり前です。これ別にね、マイナスじゃないですよ。今ここ一番大事なことは、これからもう僕らもそのうちいずれ死んでいくでしょうし、すでにお亡くなりになった方もいるかも知りません。そこに新しい住民が、また入ってきているんですよ、少しずつ少しずつ。ここがめちゃくちゃ大事で、ここに小学校があるから入ってきているんですよ。それをもう廃校にしたら、新しい人が入ってくることがなくなってしまうんです。そこはすごく市として損失やと思います。市の活性化、それから現役世代の若い人たちを呼び込もうという施策もやっているわけじゃないですか。教育委員会の職員さんにそれ言うのはわからないし、本当言うたらそこに、おっしゃるとおり市長なり、政策を企画してるような部門のトップの方が来て、まちづくりというところもしっかり話を聞かさせてもらいたかったかと思います。今日はそれが無いってことで残念ですけども。

その3点をしっかりとしますのでちょっと避難所とか、こんな後付の問題ですし、その崖ですよ。しっかりそこに擁壁を作ってくださいよ、そんなに安全、市民の安全と言うんやったら。それをちょっと、後付でなんかで出してくるのは非常にやり方としては良くないと思います。廃校には絶対反対します。

5. あやの台小学校と境原小学校の間の紀ノ光台に住んでいるんですけど、もともとこの学校の前に、あやの台小学校に行こうとしていたんですけど、南海が何かとか言って理不尽すぎる理由をつけられて、あやの台小学校行けなかったんですよ。けど、境原小に行ってから、いろいろ人間関係でトラブルはあったけど、それを解決することによって、人との関わりが深まったり、さらにその解決力がついたりして、中学校に行っているけど、人との関わり方がうまくなったと自分でも感じているぐらい、その境原小学校で深い関わりが強いんですよ。さらにマラソン大会、ここの学校あるんですけど、学校の周辺を走るんですけど、学校の周辺で地域住民の方たちが立ってくれたり、一緒に応援してくれたりして、もう、学校と地域住民の関わりがめっちゃ強くて、さらに応援もそのお子さんがいない、おばあちゃんおじいちゃん世代でも、わざわざ外に出て声をかけてくれたりして、実際自分もそれでやる気が出たりして、マラソン苦手だったんですけど結構頑張れたりして。でも、まちづくりの、そのさっきおっしゃられていたけど、その地域住民と学校の関わりが深まっている学校生活とおっしゃられていたじゃないですか。もうそれがもう境原小学校では完結しているんですよ。だからもう、なくなるのも嫌やし。だから私は反対します。

6. 境原小学校 6 年です。幾つか言いたいことあるんですけど。最初にここが廃校になったら、通学路があるんやけど、熱中症とかあるし、地球温暖化が進んでるから危ないから、絶対やめて欲しい。あと、この学校は太鼓が伝統的やから、絶対残して欲しい。だから絶対廃校はいや。

(教育委員会)

大変貴重なご意見ありがとうございます。この説明会を今までさせていただく中で、本当に、10 代の子供さんたちの生の声を今回聞かせていただいて本当に感謝しています。学校教育課で勤務していますが、学校と直接関わるソフト面での関わりが非常に多い部署になります。この 3 月に校長先生方に、この学校再編のことをお話しさせていただきました。そして、そこから各学校の方で、子供たちにもこのことを伝えていただきました。境原小学校につきましては、その時に学校がなくなるのがつらいと言って、悲しんでいる子がいたという話を、後から聞かせていただきました。境原小学校は、おそらく今年で 115 年になるんでしょうか。本当に歴史のある学校です。私たちもこの再編について考えるのは本当に断腸の思いで今取り組んでいる最中です。その中で、地域の方から、最初にお話させていただいた中で言いますと、あやの台小学校には行けなかったんだけど、境原小学校に来ることになった。その時はきっと、ご不満もあったとは思いますが、ですが、境原小学校に通うようになって、いろんな友達と出会って、そしてその中で、楽しいこと、悲しいこと、辛いこと、喜ぶようなこと、いっぱい体験されたのだと思います。その中で、いろんなトラブルを解決してきたことを先ほどおっしゃられていましたが、これは今まさに子供たちに求められている力だと思っています。何でもかんでも周りのせいにしてたり、大人に頼ったりというのではなくて、自分たちで何とかして解決していこうと持っていく。そういう姿というのは、本当にこの学校で培われているんだと痛切に感じています。また、当然その中には、先生方の尽力であったり、それから地域の方々、保護者の皆さんの支えがあったからこそ、今があるんだろうなっていうふうに感じています。もちろん、マラソン大会で地域の方が一生懸命応援してくれる。もう本当にエネルギー湧きますね。そういうことを、本当に今、この境原小学校で一生懸命いろんな方が取り組まれているということは、学校教育課としましても、また教育委員会としましても、本当にうれしく思っています。今、いただいたご意見は、本当に大切に持って帰って、これからの我々の話し合いにも生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

若い方のご意見いただきまして、この方たちが橋本市ですっと活躍していただくような環境を作っていくのが、我々の役目ではないかと思っていますので、よろしくお願いします。

7-1. 小峰台に住んでいます。先ほどから説明は、一応聞かせていただいたんですけども、まずこの場自体が、まず説明会とあるのですけれども、これ決定事項の説明という話の理解でいいんですか。それとも協議の場ではないのですか。

(教育委員会)

協議の場の方で取ってください。決定事項をお伝えしているわけではございません。

7-2. それであれば、まず順番が間違っていると思います。まずこれは市の方針なのかどうなのか、教育委員会の方針なのか。

(教育委員会)

教育委員会の方針です。

7-3. 順番が間違っていると思います。市長がおっしゃっていることではないですよ。市の方針ではないですよ。であれば、市長の方針をまず聞かして欲しいです。それでなければ話にならないと思います。人口減少の原因をまずお考えなのか。原因は何なのか。教育委員会だからといって、市の職員であるのは間違いないと、人の減少が多くなっているのは、何が原因なのか、まず皆さんでお考えになったのか、それをどうしたら減少を止めるのか、そういったことをまずお考えなのか、そういったことをまず説明すべきではないんでしょうか。ただ減少するのをそのまま受け入れるのかというふうにはしか受け取れないです。

後ですね、この説明資料にもありましたけれども、国の機関が望ましいという言葉を使っていますけれども、望ましいとは何ですか、定義を教えてください。全くわからないです。この説明の中で、子供たちも参加しているのですが、説明の内容が全くわからないような説明をして何が理解できるのか、私も理解できません。

あと、急傾斜の対策。こちらも後手に回っているだけだと思います。先ほどの説明では令和2年その時点でわかっていたことだと。その時点で、なぜ対策をすぐ行わなかったのか。その説明責任は市長にあるんじゃないでしょうか。あとですね、市長もあと任期が2年ですよ、2026年。市長変わったらどうなるんですか。方針も変わらないんですか。その辺も教えてください。

(教育委員会)

非常にちょっと難しく、正直、即答をできないところもあるのをご了承ください。まず人口減少をどうしたら止められるかということを考えている中で、大きく分けたら、これちょっと教育委員会の管轄を超えてしまうかもしれないんですけど、私見も入っています。子供の数を増やそうと思ったら、橋本市内で出生数を増やすか、もしくは、近くで生まれたお子さんに引っ越ししてもらうしかないんです。それは人口減少を止めることはできなくても緩やかな勾配にするという認識はあります。行政としてそういう施策を打っていて、子育て支援の方は充実していると思うんです。それは医療費であったり、保育の受け皿であったりという形で誕生してくれたお子さんに対する子育て支援をして、例えば、小中学校に幼児教育や保育をつなげるということはしていると思うのですが、人口減少というところは、いろんな定住促進の施策を経済推進で持っているのですが、緩やかな傾向にはなってないというのが現状でございます。

望ましい環境のことなんですけど、言葉そのものが望ましいというところと、ちょっと乖離があるんですけど、一定のお子さんですって 6 年間行くのも 1 つの考え方で、小規模を決して否定をしているわけではないです。一定の規模のお子さんを学習させてもらうにあたっては、一斉学習、グループ学習、個別学習と、いろんなバリエーションがあって、そこに先生の工夫もあります。そういった中で、今ありました、小学校では G I G A スクール構想といいまして、I C T も取り入れて、いろんな形で子供たちを育ませてもらっているという状況でありますので、そういった環境に、より近づけたいという意味で方針を出させていただきました。

急傾斜地のことにつきましては、もう正直すいませんおっしゃられるとおりでございます。対策としては、現在もハード対策としては打てていないところなんですけど、ソフト対策という形で土砂災害の警戒区域にしているところが、後から網かぶったんですけど、悪天候の場合は、学校自体を休校もしくは臨時休校にさせていただいて、危ない日には、お子さんの安全を重視させていただきます。それから最後の質問は、市長のことなので申し上げるのは控えさせていただきますと思います。

8. 小峰台に住んでいます。今朝の未就学児の説明会にも参加させていただいてたんですけど、私も先ほど区長さんのお話にあった、九度山町の小学校の出身なんですけども、少人数で、1 年生から 6 年生までみんな名前がわかるような、すごいアットホームな学校で育ちました。それによって、特に多様化の時代に対応できなくなったというような、そんな思いは全く感じてなくて、小峰台に引っ越ししてきて、小学校が少人数だっているのを知って、ちょっと安心したような面もあって、子供一人一人に目が届くような学校だったら、その方が嬉しいなと思っていました。それで、先ほども対災害対策の面で、設計に 1 年、工事に 1 年の時間がかかる、費用がかかるということで、対策をされてないということですけども、現在も、小学校に通われている子供たち、いらっしゃると思うので、その災害対策の方をまず早急にやっていただいて、この小学校が安全に通える小学校になれば、特に廃校にする必要は全くないんじゃないかというふうに考えます。私からの意見です、よろしくお願いします。

(教育委員会)

朝からもありがとうございました。今日、お聞かせいただいたことは持ち帰らせていただきます。この横の土砂のことについては、自分たちも心痛いところは正直あります。確かに設計し工事してというところも期間的なこともあるんですけど、対応の仕方が難しいというのも正直ありまして、今も見てもらったらわかるように、どんどん木が大きくなっていて、木自体がもう体育館に押し寄せている状況です。その中で、まず木を切らないと、と思ってしまいますけど、木を切ると、そのまま直接斜面に雨が降りつけられるということも考えられて、本当にこの傾斜地に、雨が降りつけたときに、こっちに崩れてくるという受けの対策を考えられたとしても、やはりこの幅が限られているということであったり、本当にこう

いった言い方は変ですが、この体育館そのものが、土砂崩れが起こったときの何か防護役を担っている状況になっています。ということで、この間に受けのところを、その土砂が崩れてくる想定調査をするというのは非常に期間的にも工法的には難しいというのもあって、正直できてないのが現状です。でも、今日、いろいろご意見いただきましたので、持ち帰らせてください。ありがとうございます。

9-1. ちょっとお聞きしたいんですが、先ほど市長の指示のもとではない、ということの発言があったんですが、これ統廃合するとなれば、最後の決定権、最終責任はどこの誰が決めるんでしょうか。ちょっとわからないので、市長が決めるんですか、それとも教育委員会が最後決めるんでしょうか。ちょっと確認したいので、返答願えますでしょうか。

(教育委員会)

お答えします。あくまで学校の設置者は市長になります。

9-2. 市長の指示でやっているわけじゃないけども、最後に決めるのは市長だと。教育委員会として、今の子供たちの学習、橋本市内のこの14校の学習環境のあり方を考えるのは教育委員会でも、市長はここに来るべきじゃないでしょうか、最後決めるのであれば。市民の声、子供たちの声を聞くというのが市長の役目、組織として苦しいかもわかりませんが、最後に決めるのが市長であるならば、子供たちの声、市民の声を聞くのが市長の責任・責務じゃないでしょうか。なぜここに出席されてないでしょうか。ちょっとおかしくないですか。最後決めるのが市長であるならば、ここに顔出してちゃんと意見聞いて欲しい。教育委員会としても市長に出席してくださいと、なぜ言えないんでしょうか。おかしくないですか。市民の総意で市長になっている立場でしょう。忙しいとか関係ないじゃないですか。教育のことが一番大事です。だから顔出すように教育長からもお願いしていただきたい。それが一番大事な根本じゃないの、岡潔の教育は情緒であるということを打ち出している橋本市でしょ。何で市長がこれないかなというのは非常に疑問です。

(教育委員会)

本日のこの意見交換会は教育委員会が定めました。この適正規模・適正配置の2期方針の内容をまずお伝えをして、教育委員会が主催で意見交換をさせていただきたいという旨で、我々で参りました。

9-3. こういう意見があったって子供たちの声を市長並びに、市議会議員の各先生いらっしやいますけど、ちゃんと共有して、市民と行政と市議会と三位一体で育む条例があると、どこの会場で言わせてもらっているけど、そうなるようなことをきちっとやって欲しい。情報をちゃんと開示をしてほしい。説明会とか、どこの会場でも言わせてもらっていますが、この会場が一番まとまっているし、一番人数が多い。3つぐらいしか参加できてないですけども、それに合うような動きを行政側もしていただきたいと要望します。よろしく

お願いいたします。

10-1. 小峰台に住んでいます。今日のご苦労様です。先ほどから皆さんおっしゃっていますけど、私もちょっと疑問なんですけど、先ほど教育部長さんは、市長が決めるとおっしゃいましたが、どの法的根拠に基づいておっしゃられているのか。地方教育行政法ありますよね。これは数年前に改正というか、変えられましたけど、その時においても教育委員長がいなくなって教育長ということになりましたけど、その時においても学校の設置については、教育委員会の権限であるということが、文科大臣の答弁でも確認されていると思うのです。それを決めるのは市長だというのは、どういう法的根拠に基づいておっしゃっておられるのか。また、教育委員会の逃げとしておっしゃっているのか。よくわからないので、法的根拠を教えてください。

(教育長)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律のことを言っていると思います。確かに、学校の設置者という表現があります。教育委員会については、設置された学校の運営等について管理していくのが主な仕事ということで、そこでは位置付けられていると思います。その解釈については、学校の設置者というのが、地方公共団体もしくは学校法人、もう1つが国だったと思うんですけども、そこが設置することができるとなっています。そこから解釈すると、学校の設置者というところというと、市長、地方公共団体の長ということと解釈できます。

10-2. 市立の学校ですからね。そういうことで言えば市ということになりますけど、じゃあ市長が決めるというのは間違いじゃないですかと言っているんです。先ほどの方もおっしゃられましたけど、市長が決めるというのであれば、この計画は市長の意向のもとで動いているのかと。そして、それならば先ほども言われましたけど、市長がここに来て、みんなの意見を聞くべきじゃないかと思います。そうでないならね、ちゃんと、その法的なことも含めて説明をしていただいて、納得いくように説明して欲しいと思います。

いずれにしても、誰が決めるにしても、今これだけ住民や保護者の方から、また子供たちからも、統廃合はしないで欲しいという声が出ているんですから、それを尊重する方向で検討しますという、そういう答え方をすべきではないですか。持ち帰りますということだけではせっかく集まって、この暑い時間に休みの日に集まって、みんな意見を言っているのに、これが無駄になるのかということでは困るのでね。

今日出た意見を尊重しますということをはっきり言うべきなんじゃないですか。

(教育長)

今、地域の説明、保護者の説明、関係者の説明をさせてもらう中で、本当にたくさんのご意見をいただいています。並行して、教育委員会の事務局職員、そして私たち教育委員会、私と委員が教育委員会という立場ですけれども、そこでも内部で検討を重ねているところ

です。皆さん方から聞かせてもらったご意見は、整理して全部私たちの中で協議をしているところです。それで、最後こう考えていくんだということについては、一定の報告できる内容ができたときには、また皆さんにお示しさせていただきたいと思っています。

それと先ほどのご意見の補足なんですけれども、市長が地方自治体の長として議会に条例を出して、最後、議会で承認されないことには、学校再編というのはかないません。そこで最終決まるということになりますので補足させていただきたいと思います。

11. 和太鼓クラブのお世話をしています。今日は子供たち、そのあたりにいるんですけど、演奏してきました。あじさいホール満席でした。大喝采いただいてきました。こんな子供たちがいるんです。全国大会2回も出ています。連続で出ています。その場所でも全国の子たちと繋がっています。なぜそういう子たちをないがしろにして、こういうことをしているんですかね。子供たちとっても頑張っています。和太鼓を始めたきっかけは、昔の小学校のときに太鼓が始まっていた。その時はもう複式でした。こっちの学校に移りました。人数増えました。南校舎できました。また複式になってきました。ちょっと学校盛り上げたいよね、地域で頑張っていきましょうというので、和太鼓クラブ立ち上げました。そして今学校は人数増えています。これだけ頑張っている地域なんです。無視しないでください。

学童の指導員もさせていただいております。先日は3日間、工事の関係で体育館で子供たち30人ほど過ごしました。スポットクーラー貸していただいてありがとうございました。暑くて過ごせませんでした。避難所になりますでしょうか。

私が20年前働いていた埼玉の県立高校では、体育館とは別に防災の建物がありました。県立高校です、つくれるはずですよ。1階には食堂がありました。2階にはシャワー室が完備されていました。昼もありました。部活でも使っています。普段から使っている場所でした。20年以上たった今でも、校長先生は災害になりそうになったとき発信しています。ソーラーパネルの準備もOKです。蓄電池も大丈夫です。安心して下さいね。そうやって、ホームページで知らせているんです。地域の方にも。できないことではないんです。先ほど小峰台の自治会長が言っていましたよね、他の場所につくれるんじゃないか。第2体育館作ったらいいじゃないですか、不可能なことではありません。お金がないじゃないんです、お金は作るものです。紀北工業高校の体育館は卒業生がお金出しています。今の時代クラウドファンディングもできます。お金は関係ありません。できることなんです、してください。

ICT教育、人数が多いからできることとかは関係ないです。少人数でもできます。10年前、プレゼンの大会に出たうちの息子出ています、全国大会です。その場で言われたことは、今はクラウドです。他の学校の子と繋がってください。少人数でも構わないんです。他の学校とグループ学習できるんです。ここに書いてあること全然いらないんです。2クラス関係ないんです。他の学校と繋がれるんです。

今子供たちはゲームで夜7時、8時に集合しようかとゲーム内で繋がっています。子供た

ちできています。会社もそうですよね、1つのファイルに10人20人。会社から繋がっている人、家から繋がっている人。出先から繋がっている人、出張先から、海外から、つながれるんです。これ何の理由にもならないですよ。

もう1つ、なぜ少子化少子化言って何もしないんでしょうか。今、保育留学ありますよね、1週間に10万円、親子でかけて北海道行きます。20万円なんてことないです。とってもよかったです。僕たちここに移住します。そういうニュース見たことないですか。和歌山県1つの学校しかしてないですよ、1つの保育園しか。いろんなところでそういう地方のいいところが自分たちをアピールするんです。なぜ橋本はしてないのですか、教えてください。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。お世話になっている方にそう言われたら、学童であったり太鼓だったりいろいろ子供たちのためにご尽力いただいている方に言われたら、それは自分たちも何も否定してないですよ。今日は発表会、お疲れ様。決して子供たちをないがしろにする、中でできないことはそんなの全然思っていないです。思っていないです。

少子化のことについて、何もしてなかったんじゃないかってそれもね、実際は、去年の3月まで、こども課という部署だったんで健康福祉部の、その時に保育園とか幼稚園とか医療費とか児童手当を担当しました。ずっと児童手当を担当していたら、子供の数が減ってくるのがわかって、去年まで何とか300キープしていたんですけど、すいません一昨年まではね。去年初めて赤ちゃんの出生者300割ったんです。でもですね、医療費であったり、子供になにかあったときの医療費であったり、その保育というところは、当時は財政厳しかったんですけれど、努力はして提案をして、何もしなかったわけじゃなくて、当然保育士さんとか調理員の力も借りたんですけれど、そこは頑張っていたんです。たまたま、今、教育に異動してきて、学童担当のところにもいたんですけれど、引き続き子育てにご尽力いただいている方とは、パイプをつながていかなければいけないので、できる限り私たちも教育委員会の中で議論して考えていきますので、引き続き力を貸してください。

今日のことは、持ち帰らせてもらって本当にきちんと協議します。結果また総合的な形になりますけど、決して私たち、そういう子供たちをないがしろにするというような形で来ていけませんので、そこだけご理解いただきたいと思います。

12. 境原和太鼓クラブで活動しています。住まいは小峰台です。私は、境原幼稚園、境原小学校、紀見東中学校、橋本高校、それから和歌山大学で、ずっと和歌山で学校生活を送ってきました。今、職場は大阪です。ただし、なぜここに残っているかという、和太鼓が私をここに繋ぎ止めてくれました。今、前に座っている彼ら、私の教え子です。和太鼓、必死に頑張って全国大会まで行ってくれました。今ここの説明会に参加されている方で、同級生はほとんどいません。ほとんどやっぱり出ていってしまいました。やっぱり子供を産むとなると、若い人たちが残らないと子供は増えないと思うんです。新しく移住するだけで

もなく、この子たちが将来ここに残りたいと思う地域がないと、やっぱり、若い人たちは住まないです。彼らの母親、父親の中には、やっぱり私の先輩として小学校を卒業してくれた方もいます。パパママとして帰ってきてくれる方もいます。そういった方は本当にごく僅かです。そういった地域を作っていかないと、今後、無くなってしまわないですか。むしろ今それができているならば、この私達をモデルケースとして、何かもっと研究の対象として見てもらえないでしょうか。よろしくお願いします。

(教育長)

ありがとうございます。先ほど私少し話しをさせてもらいましたけれども、やっぱり地域にどれだけ愛着を持った子供を作っていくかということ。その子供たちの育ちを周りの大人が見てあげて、どう評価してあげるか。評価というと難しい言葉ですが、褒めてあげるか、そういったことの繰り返し、子供の心の中にその地域というのを作っていく。だからこそ、その共育コミュニティ、地域ごとの繋がりというのを大事にした教育を進めようと、そんなふうに私たちは考えています。このことは教育委員会で取り組むまちづくりです。私はそのように思って、それぞれの学校にいろんな取組をしてもらいたく、いろんな提案をしています。そのうちの1つが、境原小学校だったら太鼓のことであり、他のことで地域の方に関わってもらいながら、いろんなこと取り組んでいる。それに当たると思っていただけだと思います。だから、今言っていたことというのは私も同じように思います。

地域づくりイコール教育委員会という、本当に地域に愛情を持って育つ子供をつくっていくこと。それが地域づくりに繋がっていくと思っていますので、今後ともこの取組は、この学校再編とはかかわらずに、しっかり取り組んでいきたいことだと思っています。

13-1. 境原区長です。いつもありがとうございます。

私もいろいろ、議員として他の学校の傍聴に行かせていただきましたけれども、まずこれだけのメンバーがそろっているところはなかったと思います。これだけの皆の熱い思いを当局に伝えてくれているとかもなかったと思います。こういうものを、卒業生の子供も一生懸命先ほどから話してくれました。もう僕、感動しました。ですから、やっぱりこの場では無理かわかりませんが、この思いというのはやっぱり受けとめていただきたいと思います。

私 59 年間、この境原で住んでいます。ここも昔は僕らが遊んだ山やって、基地でそんな場所やったんですけども、ここを切り開いて小峰台という地域ができました。59 年間住ませてもらって、ここで災害というのは、まだ 1 度も起こっておりません。先ほどからちょっと聞かしてもらって、令和 5 年度にここの調査をしてあるということを聞かしてもらったんですけど、他の説明会でそういったことを僕 1 回も聞いてないです。調査していましたということを、なぜ今この場におよんでそういうことが、今までは他の学校、他の説明会では境原小学校は危ないと、ずっと聞かされていたんですけども、調査した結果を北側大丈夫やと、それいつからそういうふうに変ったんでしょうか。

(教育委員会)

まず、その基本調査のことですけど、この境原小学校の隣接するところでしたので、境原小学校の保護者の説明会、或いは紀見地区の区長会、それから今日のように地域の方の説明会には、ここの部分に関してはやはりプラスアルファでお伝えしないといけないということがあったので、今日入れさせてもらいました。その災害のことですけれど、北側につきましては、去年、実際あった線状降水帯という一部のところに集中的に降る大雨につきましては、北側は一定の距離がありますので、もうそれ以上行わないということであったのですが、そこからまた教育委員会として、大規模な未曾有の地震が起こったときというのは、やはり絶対安全ですよと言い切れないところがあります。過去に土砂崩れが小さいのはあったとしても大きいのはないっていうのをわかっているのですが、通常運営ではしょうがないのですが、絶対というのが正直言い切れなかったもので、そこだけはリスク回避ということで、ご理解いただきたいと思います。決して隠しているわけではなく、境原の地域には、特にここは説明しないといけないということで入れさせてもらいました。

13-2. そしたらもう3年前にわかっていたことを、なんでハード対策の計画を立ててやっていこうとしなかったんでしょうか。

(教育委員会)

ソフト対策を重視したということで、その時は、山が橋本市の土地でないということであったり、いろいろその時は考えて、やっぱり子供たちの安全のリスクを考えたら、まず学校をそういったときには開けない。もう自宅で避難してもらおうと、そっちの方向で動いていたからです。

13-3. 今後もし統合したら取り組む上での留意点ということで、安全対策、学校施設の設備というのを、ほんまにそんなんやるの。現状できていないのに、今後それやりますと言うたかって、それ信用できますか。それと、きめ細やかな学習指導と教職員の指導の向上、今ここで書く必要ないんじゃない。当たり前の話やと思うけど。違いますでしょうか。

(教育委員会)

安全対策につきましては、例えば通学路の安全対策、防犯、設備のこと、災害対応も含めて、順序とか規模はあるんですけど、そこは欠かすことはできませんので、そういう必要性があるということで方針にさせてもらってあります。それから必要なものは計画的に、やはり内部で協議して、予算化に努め今も進めております。それから、私が申し上げたような、きめ細やかな学習指導と教職員の資質の向上、これは当然のことなんですけれども、やはり再編が絡みますと教員も異動がありますし、子供たちの特性をやっぱり引き継いでいく形になりますので、こういったところは明記させていただいた次第です。

13-4. 子供たちのことを思うのだったら、こういう言った話が出てくること事態、僕はおかしいんじゃないかと、市民さんから、もうそろそろこういうことちょっと困っているんだけど、子どもがやっぱり、今の環境が思わしくないとか、そういった話が出てきているのであればわかりますよ。教育委員会の方から、市民に向けて、方針としてこういうふうにやっていきたいって。こんな説明会までやって、ちょっとそれは違うんじゃないかなって。もっとほんまに、市民のこと、生徒さん、これはこれからの子供のことを考えるのであればね。やっぱり新たな環境を作るのであれば、やっぱ期間をおいて作るとか、そんな3年で友達できたって、新しい小学校に入って、また環境が変わってしまったら、子供らだって、どういうふうになっていくかわかれへん。その責任をどう取るのかなと思うし。きめ細やかかなと言うたって、人の心はそんなわかりませんやんか。特に子供なんか、繊細で。だから、今日、皆さんのいろんな意見、本当に貴重な意見いただいたと思います。それをやっぱり真摯に受けとめて、教育委員会の中でもう1回考えていただきたいというのが、境原区長としての思いでございます。ここに見てもうたらね、先ほども卒業生の人らが言うと思ったけども、みんなね、私の学校、僕らの学校、この思いで卒業して今もその気持ちでおってくれとるんです。それを忘れんといってください。よろしくお願いします。

(教育長)

ありがとうございます。今賜りましたご意見については、直接、私もこうやって聞かせていただいていますので、また教育委員会議の中で、また事務局との話の中でしっかり考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

14-1. 小峰台に住んでいます。先ほどから子供たちの声、聞いていただいたと思います。今日、ここの会場に子供たちがきているということにすごく感動しています。子供たちの声をね、やっぱり子供たちにこそ、意見を聞いて欲しいと改めて思いました。子供やからと言って、いろんな思いを持っていると思うんですね。大人が勝手に決めてもいいっていうものでもありませんし、それは災害のリスクはあるということも、先ほどからちょっと、令和3年にはもうわかっていたのに対策がということで、対策も難しいという話です。いくらここで、すごくコミュニティ頑張って、みんな地域で支えて、境原太鼓も頑張って、卒業生もすごい繋がっていると言っても、この計画でいったら、ここで意見交換会終わって、あとパブリックコメント取って、そのまま強引に進めないとおっしゃっていますけれども、このままの状況で進んでいってしまうんじゃないかというのは、皆さん思っていると思います。

先ほど、小峰台の区長さんがおっしゃっていましたが、今、意見を聞いていますということで、具体的にどうなるということを、多分、教育委員会の方では話し合っておられると思うし、この場合はこう、こういった場合はこうというふうに、ある程度想定して考えておられると思うんですけども、そのことを住民たちに言ってくれないと、意見も言えないと、どうなるんですか。不安ばかり、不安に応えるためにこうやって、今回も開いていた

だいたとは思うのですけども、実際にこれで現実問題を考えて、城山小学校にみんなが通うということになったら、学童の問題。学童、種類違いますね。その分バス出して送迎しますとかと聞いたことあるんですけども、組織自体が違うものを融合させるというのはすごく大変なことだと思うんですよ。今、ここ境原はでき上がっています。人数も増えていきます。勢いもあります。皆さんこんだけ団結しています。その中で、本当に杓子定規というか、机上のことで、こことここ引っ付けて、伝統の境原太鼓も向こうでカリキュラムやりますと言って、本当にそれが実現するのか。やっぱりこの距離で歩いて帰るところにあるからこそ、それが今成り立っているし、これまでの歴史があるというふうに思うので、やっぱりその辺、子供たち、それから学校現場、もっと具体的なことを提示して、これどう思いますかということで意見を聞いて欲しいと思うんですけども。その点はいかがでしょうか。

(教育委員会)

お出しできるところ、例えばこの基本方針そのものを強引に進めないのは申し上げたと思うんですけど、例えば、これが計画になった場合、計画を定めてから学校を再編するまでに期間がありますので、その中で具体的にどうやっていくかというのは協議していきます。でも今、その話じゃなくてその前の話だと思うのです。協議している内容で、あやふやなことは申し上げることできないのですけど、方針が見える形で考えていくことにつきましては出していくような形で考えていきます。

14-2. 見える形で情報をもっとたくさん、教育委員会は何も考えてないわけじゃないと思うんです。考えていると思うんです。それにはやっぱりもっと時間が必要ですし、災害のリスクはあります。あるかもわかりません。けれども、そのことはすごく大事なことで、一応3年という計画なので、計画ちゃんと立てないと、タイムリミットというか逆算して計画を進めていくと思うので、その途中のことは、必ずやっぱり皆さんに情報は流して欲しいと思います。勝手に決めるということは多分ないとは思いますが、教育委員会の中で揉んで、最終的に市長が決めるとなっていますけれども、今回は、市長は来られていませんけれども、市長部局もそうですし、政策というか、まちづくりの方の観点から、それから危機管理の方もやっぱり交えて話さないと境原小はちょっと特殊なので、人口というか、だんだん学級数減ってきて、子供たちが減ってきて、もう心細いなあ、もうこのままで統合してもらった方がいいと思っているんやったら別なんです。ものすごい勢いでやって、これからもっともっと盛り上げていこうとなってるのに、ぼしゃって、今つぶされるというか、この時期のことはすごく大事だと思うので、皆さんもやっぱりその点が一番、ほんまに意見反映されるのか、というようなところだと思うので、そこをもう少しちょっと考えて欲しいというか、しっかりとその情報を皆さんに流して欲しい。

計画こうなりました、ひょっとしてこれは確定ではありませんということであれば、後々ちょっとこの部分も、もう少し詰めたほうがいいので、こんだけ延長しますと言ったらあれですけど、そういうこともありうるというようなことも踏まえて、ちょっと答えてい

ただけたらと思いますが、いかがですか。

(教育委員会)

この新しい学校づくり推進計画を定めるに当たって、そう簡単に定まるものではないというのは、これまでの説明会で実感しています。今日で5日連続回らせてもらっているんですけど、一番直球でいただいています。こういったところを踏まえていくと、やはり考える時間もやっぱり必要じゃないかというのはあります。計画を、本年度末を目標に当初置いていましたけど、延びる可能性は否めません。

14-3. 延びる可能性は否めませんということでしたけど、教育部長じゃなくて教育長が言うべきじゃないですか。

(教育長)

部長が申しましたとおり、こうやって地域の皆さん方のご意見、保護者の皆さん方のご意見を聞かしてもらいながら、それをどう紡いでいくか、どう整理していくかというところは、本当に時間かかるところだと思っております。何度も繰り返し申し上げているように、このまま計画どおり、とんとんと進めていくということではなく、いただいている意見をどうやって生かしていけるようにしていくことができるかということは、すごく大事なことだと思っています。なぜなら、こういった学校再編で、一番不安に思う子供たちが安心してもらえるためには、保護者の皆様方にも、地域の皆様方にも、一定の、全てを理解してもらうというわけにはいかない部分もあるかもしれないけれども、大事なところについては、わかったよと言っていただいてから進めていかないことには、絶対うまくいかないと思っています。子供たちは不安になります。一番近くにいる保護者の方々、地域の方々が、その子供さんにどう言葉をかけてくれるか、それはすごく大きなことなんです。私たちが進めていくために気をつけないといけないことで、こんなことしますということを説明したのもありますが、それは当然私たちとして責任を持ってやっていかなければいけないことですが、皆様方にもそういったところでお願いしていく必要が絶対あるところだと思っているからです。しっかり検討しながら進めていきたいと思っております。

15-1. 結構長くなってしまっていますが、私は境原小学校のもと木造校舎で卒業しました。私が卒業したのは、ここの境原小学校ではなく、向こう側に立っていました木造時代の境原小学校です。木造校舎も当時、耐震だ、火災だ、防災だという問題で取り壊されるということが話としてありました。ここに小峰台ができるということで、こちらの方に新しい境原小学校として移転されると、ここに新しく建てていただいているところです。でも境原小学校という名前は残っています。建物を見た感じだと全く違います。やはり、昔の小学校の名残りというのは無くなってしまっているのはありますが、ここの境原小学校の裏門は当時の正門の門柱です。さらに、生徒玄関には、当時の瓦等残しておいていただいています。やはりここに来ると当時思い出させます。防災の観点から、ここが駄目というこ

とで、今話上がって、その関係で統合ということでお話がありますが、統合というのは最初の話で再編と統合というところの表現が違うということを仰っていましたが、統合というのはどちらですか。

(教育委員会)

途中で申し上げたのは、学校再編と統廃合のことを申し上げました。統合というのは、統廃合とまた違ってその統廃合はあくまで小さい学校が大きい学校に吸収されるイメージ。もう完全に吸収されるイメージですけど、学校再編は、規模の大小にかかわらず、その学校でやってきたこと。

15-2. 資料はどちらですか。資料に書いているのは統合と書いています。

(教育委員会)

いわゆる複数の学校を1つに再編させていただくという意味でとらえていただきたいと思います。

15-3. つまりここは廃校をする目標として掲げて話をしているということですね。

(教育委員会)

そうではございません。例えば今回は再編ということで城山小学校に再編をされたとしても、全てが、例えば、名前、校歌、校章、旗ですね、制服は学校によって、あるところ、ないところあるのですが、そういったところ全て、城山小に吸収されるという意味ではございません。そういったところを準備会で考えていく流れになります。

15-4. どういう意味ですかそれは、それぞれの校章を背負った生徒がそれぞれいるってことですか。

(教育委員会)

今回2つなんですけど、2つの学校で、場所は今のところ城山小学校を提案させてもらっているんですけど、新しい学校を作っていきたい。そのために準備を重ねていきたいという経過は今後ございます。

15-5. どういう意味ですか。城山台に境原小学校があるという、そういう意味になるのですか。何か表現がよくわからないですけども。それだったら、小峰台2丁目に空き地いっぱいありますよね。市民病院の前の菜の花畑、市民病院の社員駐車場ですよね。あそこ市の持ち物ですよね。

(教育委員会)

説明が下手で申し訳ありません。今は、城山小学校の場所に新しい学校をつくるというイメージを持っていただけたらありがたいです。

15-6. つまり廃校ということですか。

(教育委員会)

対等で学校が合併するというイメージを持っていただければありがたいです。廃校となったら無くす、そういう完全にもう、そういう考え方ではなく、場所は城山小学校に移るけれども、そこで新しい学校を対等合併するというイメージを持っていただけたらありがたいです。

15-7. だからそれは表現としたら、ここはこの日で廃校になります、この日から城山小学校としての児童となるということですよ。そこが城山小学校も廃校しました。新境原城山小学校になるということですか。

(教育委員会)

その可能性はございます。

15-8. 可能性じゃなく、どういう計画を持っているのですか。この計画書自体が、まず今出していただいている計画のこの縦線が入った時点で、それぞれの学校名がどうなっていくんですかというところだと思うんですけども。

(教育委員会)

学校名は計画が定まってから考えていく流れになります。

15-9. いや、だからその説明ですよ、今日。

(教育委員会)

今日は、まだとても計画までいかないんです。とても計画まで行けません。

15-10. 計画はできていないのにケツは決まっているんですよ。

(教育委員会)

ちょっと言葉悪いですけど、ケツは決まっています。目標値という形で、最短目標値という形で教育委員会として提示させてもらっているんですけど、まだ、この年度までに2つの学校を統合して、新しい学校をとという決定事項ではございません。まだ計画までとても至っておりません。

15-11. そしたら、この3年間の概ねの日程はどうお考えになられているんですか。

(教育委員会)

計画が例えば定まっても、新しい学校を作っていくのにはやはり準備期間として、2年間は必要と考えています。やはりなかなか、2つの学校を一緒にして新しい学校を作っていくとなったら、そう簡単に進めるんじゃないで、時間も議論も必要となってきますので、その期間は必要だと思います。決して後ろが決まってという形ではございません。最低3年はか

かるであろうというのは示させてもらっているんですけど、ありきではございません。

15-12. ありきではないのに、お尻は、もうこの資料上何年度というふうに書かれているのは、まず2年の目標というそこが最終的な今の着地点ですよね。まずやるかやらないかの。もうこれ決定でこのときに統合という書き方をされていますけども、統合目標というのは、もうここが決定の決着点ですよね、教育委員会さんとしまして。

(教育委員会)

目標を示させてもらっているのですけれど、決定ではございません。

15-13. 今のお話ですと2年後に決まりました。来年、皆さんあっち移ってくださいというのを、それぞれの地区の方々にアナウンスされる、1年しか猶予がないと。そういう認識になるのですか。まず1からやり直したほうがいいんじゃないでしょうか。まずこの計画自体が成り立っていないと思います。

(教育長)

いただいたご質問ですけれども、今こうやって説明をさせていただいています。教育委員会の方針として説明させていただいており、計画の段階まで、まだこうやってやりとりをしながら、どうしていくかというのを決めていく時間というのが必要になります。そこで決まった計画として決まってから、準備の期間というのも2年ほどかかるだろうとそんなふう考えているわけです。この計画を立てる段階で、最短でも3年かかるということで最短の目標値として年数は書かせてもらっているのですけれども、こういったやりとりをする時間が、私たちが考えている以上にける必要が出てくるというのも、こうやって話していると私自身も感じています。その分は、少しずつ伸びていく可能性はありますが、できる限り、災害のこともあるので早くしたいということで目標値は設定しておりました。

それと、学校がどうなるかということになるのですけれども、吸収されてというのではなくて、2つの学校が一緒になって新しい学校はできると、そういうイメージを持っていたく、それが学校の再編という形になります。

15-14. 納得はできないですけども、延びるということは、我々としてはありがたいですけども、私どもの子供はもう卒業していますので、延びることに関しては全然問題ないんですが、これから入ってこられる小さいお子様がいらっしゃると思います。3年後と言われているものが5年後になる。そしたら、うちの子1年生になるとき結局、本当はどうなるの、今、保育園に通わせているけど、そのあたりの親御さん方かなり不安になります。もっと、長いスパンで計画を持って、もう1回計画を練り直していただいた方がいいかと思っています。

(教育長)

ご意見としていただきたいと思います。ありがとうございます。

16. 2回目になりますけど、この話は何を求めているの。子供やからわからんとかじゃなくて、大人も何かわからんようになっているし、難しい言葉使われてもわからん。ちゃんと教えて欲しい。

17. 僕は、統廃合は反対です。理由は、この境原小学校が大好きだからです。境原小の友だち、境原小の場所、境原小の先生全部好きだからです。なので、それがなくなってしまうことは、非常に悲しいことだと思います。

(教育委員会)

ちゃんと言ってくれて、本当にありがとう。私の子供と多分、年齢変わらないと思うので、ひしひしと伝わってきます。ちょっと難しいこといろいろ使って本当にごめんね。本当に子供の数が減ってきて、これから中学生になっていくにあたって、これから入ってくる子供たちのことも考えて、これからの小学校のあり方を考えていくということをお伝えしたかったんです。でも、今の学校が一番というのを聞かせてもらって、僕らだけじゃないと思う。そこは、私たちも大人で、今日、ホンネを聞かせてもらって、持ち帰らせてもらって、境原小でこういったお話があって、生の声も聞いてきたという旨は、また会議をさせてもらいます。本当に勇気を持って言ってもらってありがとうございます。

18. 2回目になるんですけども、重ねてのお願いになるんですが、子供が紀見保育園に通っています。紀見保育園に入園してから、紀見保育園がなくなって、柱本幼稚園のところになりますというのを決定事項で聞かされました。今回もそんなふうに、次説明会があったときには決定事項として聞かされるんじゃないかというのがすごい不安です。休みの日に、子供たちと小学校の運動場とかに遊びに来るんですけど、ずっとここに通うんだよと言いながら遊んでいました。でもここ最近、この説明会があるというのを聞いてから、何年ここに通えるかわからないよと言いながら遊んでいます。下の子供は1回もここに通えないかもしれないと言いながら遊んでいます。本当に将来がわからないというのは、親も不安ですけど、子供も不安です。自分が何年後どこにいるのかわからないという状態が、本当に、子供たちの精神的なストレスになると思うので、そこは本当にしっかり考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(教育委員会)

ありがとうございます。しっかり考えていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

19. 小峰台に住んでします。この14ページの資料を見ると、境原小学校は令和2年の93人が、令和11年に150人と1.5倍になっているんですよ。言われましたように、そちらの評価の中でも、唯一増えているところと言われましたよね。仮にくつついたとする。城山小学校277人が181人、約3割減っているんですよ。これ仮にくつついて向こう行ったら減るんですよ。何でここが1.5倍になったのかというのを何人も言われています。そこを

きちんと受けとめてください。それだけです。

(教育委員会)

ありがとうございます。

20. さっきから少子化、少子化と言っていましたけど、その学校と学校を統合することによって少子化は解決するんですか。正直、そのさっきからずっと聞いていたんですけど、少子化と統合するのは関係ないのかなあと思って、そのメリット・デメリットとかも、何かデメリットの方しか学校の方は挙げられていないかなと思っています。

(教育委員会)

少子化と、やはりその学校の統合というのは直接関係あるかないかといえば、そこまでいきません。学校の再編で、少子化自体が解決するかということでしたら、それだけでは解決しないとは思いますが。若い人がよそに出ていくとか、いろんなことが重なり合って問題が起きていますので、その辺を解決しないとなかなか少子化というのが全て解決するのは難しいと思っています。

21. 2回目になりますけども、再編の意味は理解しました。私やっぱり、この場所に学校があるから、こうやって地域の住民の方も協力してくれていますし、残ってくれているメンバーもいます。子供たちもこの地域が好きって言ってくれているんです。場所が今の城山小学校になってしまうと、その地域を愛せますか。ここにあるから、ちょっと歩いて行こうかな、学校まで様子見に行ってあげようかな、応援してあげようかなという気持ちというのは、どんどん薄れていって、ここに掲げられている地域と結びつくという教育、本当にできるんですか。

(教育委員会)

今おっしゃられたような形で目指す、目指していくという形になります。やはり、境原小学校で地域コミュニティができて上がるので、もしこのまま例えば、再編の方針が計画となるとすれば、そういったところは引き続くように努力しなければならないです。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見です。

22. 再編するにあたっての取り組む上での留意点だけの具体的内容の充実がもっとほしい。児童の安全は、教育上とても大事なことであまりにも内容がない。親として安心して学校に通学させてもらえるように考えてほしい。橋本市の地理的な面からも統合することで教育のレベルが上がるとは思えないし、通学路や時間などは教育の1つに入っていないのか。安全第一ではないのか。